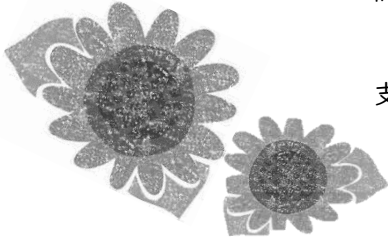


7月豪雨で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます

コロナ禍の中、ご利用者の皆さまも大変ご心配やご苦勞をされていることと思います
できるだけお力になりたいと考えておりますので

どうか我慢すぎないようにしてくださいね

支援者の皆さまには訪問活動にご協力いただき心から感謝いたします



ピッコロの発展に向けて

子ども家庭福祉研究・研修機構長（前 大正大学教授）

西郷 泰之（当法人理事）

これまでのピッコロの開拓的で安定した活動実績により、外部の機関や団体、個人からいろいろな期待がかけられるようになってきています。今回の学童クラブ（放課後児童健全育成事業）の話のように、これまで取り組んできた事業とは異なる新しい分野への挑戦も期待されるでしょう。

ピッコロは、力がある人が集まっている団体ですし、理念も明確です。しかし当然のことながら、全ての分野に関して専門性が有るわけではありません。新しい分野に乗り出す際は、その分野の人と協働して一緒に考え事業を創出していくことが必要だと思います。コンサルタントとして関わってもらうこともアリです。言い方を変えると、ピッコロ内部のメンバーだけでやろうとしないことが重要です。例えば、子ども分野だけ見ても、少しずつ専門性が異なり、課題のありかも微妙に違います。発展の際のキーワードは「協働」です。ピッコロが、その事業範囲を拡大する際、その領域に詳しい人や団体と協働し、一緒に活動の未来を創っていくことが必要です。

加えて、ここでもう一つ注文があります。ピッコロの会員の皆さんでも知らない方もあるかもしれませんが、ピッコロはこれまで日本一質の高い実践を積み重ねて来たと言えるでしょう。これから何をやるにも、日本一の質を低下させることなく事業範囲を拡大するよう期待しています。



【支援活動について引続きお願い】

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、当法人の活動は、当面の間、「チェックリスト」を基本に行ないます。今回、チェックリストの見直しを行ないましたので、会員の皆さまに配布させていただきます。

今後の対応につきましては、HPでもご案内いたしますので、随時ご確認いただきますようお願いいたします。



第 57 回理事会報告

7月9日(木)、事務所とオンラインの参加で理事会を開催し、清瀬市学童クラブ指定管理者募集に(梅園第1・第2・第3学童クラブ、四小学童クラブ、清明小第1・第2学童クラブ)、当法人が応募することを理事会に提案したところ、学童クラブは初めての領域であるが、地域で子どもの支援をしているピッコロが担うことで地域との連携や子どもを大切に学童クラブにできるのではないかと。ピッコロが手を挙げることは大いに意味がある。応募するにあたり、理念、方針を専門家の意見も聞きながら計画をすること。大人のニーズと子どものニーズが違うこともあることや今現場にいる職員のこと大切に考えながらピッコロらしさを生かしていけるようにする。今回、通らない場合も、先のことを考えると法人の意志を示しておくことが大切との意見をいただき、指定管理に応募した。結果は十月。



自粛後の K-net 子育てひろばやつどいの広場の様子

アドバイザー
手作り神輿

K-net ひろばの近況紹介

K-net 責任者 古川寧子

6月から再開した k-net ひろば、飲食できないためコーヒーコーナーやランチタイムはなくなりましたが、お子さんと離れてのおしゃべりタイムを設けています。人数制限もしていますので、参加者が少ない時はマットの緑が目につくように感じることも…。

それでも、ママの傍らで遊ぶお子さんや、動き回る我が子を追いかけるママ、そして窓から見える電車やバスを見て喜ぶお子さん達や、ずーっと遠くのスカイツリーを探すスタッフ…などは変わらない K-net の光景です。

また、おしゃべりタイムの間にお預かりして泣いていたお子さんが、ママの顔を見て笑顔になる様子を見たり、おしゃべりコーナーに来て開ロー番の「ふーっ」というほっとされた声や弾むママ同士の会話を聞いたりすると、スタッフも笑顔になります。これからも、参加して下さる親子さんとスタッフで楽しい時間を共有できるひろばにしていければと思います♪



窓からの眺め



手遊びの時間も



つどいの広場責任者 米原恵子

再会を喜び合った6月の初めから、2か月以上が経ちました。つどいのひろばは、引き続き、検温や人数制限などご協力をして頂きながら、開いています。自粛期間中、パパがいて三度の食事が大変でした、逆に育児の大変さをわかってもらえました。引越してきたのに、どこにも行けず困っていました。立ち合い出来ずに出産されたママもいらっしゃいました。

皆さん、小さなお子さんを抱えながら、頑張っていたんだと強く感じています。ひろばも、まだまだ今までのようにはできませんが、地域のイベントなどが中止のなか、ひろばが開いていてくれて嬉しいです、助かりますという声を聞くと私達も嬉しい限りです。

講座の代わりに紙パックの椅子づくりの説明のセットを用意したり、紙パックで作る電車のシートをお渡ししたり、ミニミニストレッチや簡単な手遊びをしたりしています。最後に個人的に時々困ることがあります。マスクで久しぶりにお会いするママの顔がすぐにわからず失礼しちゃうこと。ごめんなさい!

なのです。早くマスクがとれるようになること、その笑顔で「いないいないばあ〜」ができる日がくることを心から祈っています。



「我が家の救世主」

利用者 M.Y さん

在宅仕事の私は、自宅で2歳になった息子の面倒を見てくれる方を探していました。最初は一体どんな方が来るのか、もっと言えば当日ドタキャンされないかと心配でした。無事初日を迎え、支援者の方が帰る頃には息子が帰って欲しくないと号泣です。懐いてくれてホッとしました。お家で一緒に遊んでいただくことが多いのですが、飽きることなくゲラゲラ笑い声が家の中に響いています。実家もそんなに近くはないので、おばあちゃんより会っている回数は多いかもしれません。

コロナの時代が到来し、お友達と遊ぶ機会もグッと減り、私とばかり遊ぶ様になりました。テレビの時間が格段増えました。ず～っと息子の相手をしていると、心底疲れ果てる時があります。そんな時「ピンポ～ン」という音が聞こえると、我が家に救世主が来た～！という気分になります。やんちゃでワガママな息子の相手は相当大変だと思います。毎回時間に遅れず、礼儀正しく、笑顔で来て頂けることに感謝しかありません。どうぞ、引き続き、宜しく願い致します。

利用者さんや支援者さんの思い なんでもあれこれ

貴重な体験とたくさんの笑顔

支援者 T.S さん

8年前にピッコロ会員支援者になったものの、まだまだ活動経験が少ない私が養育支援の研修を受講したのが2年前。

研修内容はとても深く濃いもので、実際に活動する自信がとても持てませんでした。そんな思いの中、支援依頼の声をかけて頂きました。ピッコロコーディネーターの激励の言葉に勇気づけられ、思い切って支援活動することに、、、。普段、家族の為にありあわせの材料で名のないような料理を作っていますが、よそのお宅のキッチンに立ちそんな家庭料理を時間内に何品か作る。いつにない集中力を発揮し、作り終えた時の達成感！できるかな？と自信が持てなかった私でしたが、思いがけない感覚を味わうことができました。さらに、「ありがとうございます。助かりました！」の言葉と利用者の笑顔のプレゼント付きです。こんな機会が無ければできない体験をピッコロでさせていただき、本当にありがたく思っています。これからも、助かった！楽しい幸せ！と思える瞬間がたくさん感じられるお手伝いを微力ながらさせて頂けたらうれしいです。



ピッコロとともに

支援者 M.M さん



ピッコロの活動を始めたのは、長男が6年生の時です。いろいろな親子との出会いがありました。家庭状況は様々でしたが、親が子を大切に想う気持ちが常に伝わってきました。我家の子ども達も、ピッコロを通して出会ったお子さまとの関わりの中で共に成長期を過ごしました。息子の受験や反抗期等が重なり、家の中に日々危機感が漂っていた時期があります。そんな中でお預かりしたお子さま達と我家で過ごす日には、一緒に夕食をとり遊びたくさん笑い合い楽しい時間をもつ事が出来ました。幸せで安らぎを感じたひとときでした。ピッコロを通して出会った方との時間は、大変貴重で大切なものとなっています。1つ1つの出会いは道標となりずっと繋がっていくのだと思います。十数年経ち父親となった長男は、歩き始めたばかりの女兒を育てながら多くを学んでいる様子です。子どもと関わる全ての方が、笑顔を忘れる事なく過ごして欲しいと願っています。



